利用者名：医療保健学部　リハビリテーション学科　作業療法学専攻　教授　友利 幸之介

Scopus

Title:	Preliminary psychometric evaluation of the Japanese version of the client-centredness of goal setting scale in subacute rehabilitation
論文名（和訳）	回復期リハビリテーションにおける目標設定のクライエント中心性尺度日本語版の予備的心理測定学的評価
Authors:	Shinsuke Kai（福岡和白病院）、友利 幸之介（東京工科大学 教授）、Akari Kaneda（済生会東神奈川リハビリテーション病院）、Yuho Okita（Swinburne University of Technology）、Kayoko Takahashi（北里大学）、Emmah Doig（The University of Queensland／Metro North Health）、Jennifer Fleming（The University of Queensland）
Journal:	Disability and Rehabilitation
掲載年月	2026 年 9 月（オンライン掲載）

研究概要：本研究では、リハビリテーションにおける目標設定がどの程度クライエント中心に行われているかを評価する Client-Centredness of Goal Setting（C-COGS）尺度の日本語版を作成し、その信頼性と妥当性を検討しました。国内 4 か所の回復期リハビリテーション病棟に入院する 111 名を対象に、内的一貫性、再検査信頼性、収束的妥当性および構造的妥当性を評価しました。その結果、日本語版 C-COGS は一定の信頼性・妥当性を示し、臨床におけるクライエント中心の目標設定を振り返るための標準化された枠組みとなる可能性が示されました。

研究背景：リハビリテーションでは、本人にとって意味のある目標を本人とともに設定することが、意欲や参加、専門職とのコミュニケーションを高めるうえで重要です。しかし、目標設定への本人の関与の程度や、設定された目標が本人にとって意味をもつかを体系的に評価できる尺度は限られていました。オーストラリアで開発された C-COGS は、目標設定への参加、目標の意味や主体性、本人・家族・療法士の考えの一致を評価する尺度ですが、日本語版はなく、日本の臨床環境における測定特性も未検証でした。そこで、原版開発者である The University of Queensland の研究者らと連携し、日本語への翻訳・文化的調整を行ったうえで、回復期リハビリテーションにおける有用性を検討しました。

研究方法：ISPOR Task Force の指針に沿って、順翻訳、調整、逆翻訳、原版開発者による確認、認知的デブリーフィングなどを経て日本語版を作成しました。国内 4 病院の回復期リハビリテーション病棟から 111 名の参加を得て、目標設定後に日本語版 C-COGS と共有意思決定尺度 SDM-Q-9 を実施しました。内的一貫性には Cronbach の α 係数と McDonald の ω 係数、再検査信頼性には級内相関係数、収束的妥当性には SDM-Q-9 との相関、構造的妥当性には確認的因子分析を用いました。また、尺度の測定精度および天井・床効果も検討しました。

研究成果：採点対象 10 項目の内的一貫性は高く（α＝0.91）、Participation 下位尺度の ω は 0.86、Goals 下位尺度の ω は 0.92 でした。再検査信頼性は中等度（ICC＝0.73）で、SDM-Q-9 との間には中等度の正の相関（r＝0.53）が認められました。確認的因子分析では、主要な適合度指標の多くが、原版と同じ 2 因子構造を支持しました。一方、すべての項目、下位尺度および総得点で天井効果が認められ、高得点者の細かな違いや経時的変化を捉える際には注意が必要であることも明らかになりました。

社会への影響：日本語版 C-COGS により、療法士は、目標設定の場面で本人の意見が十分に聴かれたか、本人が意思決定に参加したか、設定された目標が生活や将来にとって意味のあるものかを共通の枠組みで確認できます。これにより、クライエント中心の目標設定を可視化し、臨床実践の振り返りや教育に活用できることが期待されます。今後は、地域リハビリテーションや精神保健領域など、より多様な対象・場面での検証と、天井効果を軽減するための尺度改良が必要です。

専門用語：

C-COGS：目標設定への参加の程度や、設定された目標が本人にとって意味があるかなど、目標設定のクライエント中心性を評価する尺度。

心理測定学的評価：尺度が測ろうとする概念を適切かつ安定して測定できるかを、信頼性や妥当性などの観点から検討すること。

内的一貫性：同じ概念を測る複数の項目が、互いに一貫した結果を示す程度。

再検査信頼性：同じ対象者に一定期間をあけて再度測定した際に、結果が安定している程度。

天井効果：高得点に回答が集中し、良好な状態にある対象者間の違いや改善を区別しにくくなる現象。